

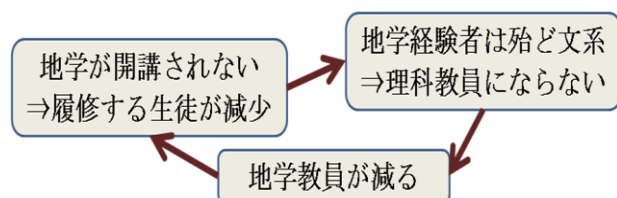
## 投稿

## 地学履修者と地学教員が増えない理由

渡會兼也（金沢大学附属高等学校）

高校地学の履修者が増えない問題点として、地学の楽しさを伝える教員（地学の専門教員）が少ないから、という話がある。例えば、日本地学教育学会会長の就任挨拶（WEB掲載）を見ると明らかにそんな話が載っている。果たして問題はそこだろうか？

地学教員が増えない原因を特定するのは難しいが、原因は地学が文系の選択科目になっていることで、以下のサイクルに陥っているからだと思っている。



まず、多くの高校で地学が開講されないの、履修する生徒は減少する。もし、開講されてもそれは文系向けなので、殆どの生徒は将来的に理科教員にならない。その結果、高校で履修経験のない地学を専門にする教員が減る。ゆえに、地学が開講されない...という循環サイクルである。文系の地学経験者でも教員養成系学部出身者は理科教員になる可能性がある。しかし、教員養成系出身者の多くは小学校・中学校の志望で、高校で地学を教えるにはある程度の専門性が必要であるから敬遠する。したがって、このサイクルの本質は変わらない。

こんな話は分かっている、とおっしゃる方も多いのではないだろうか。しかし、様々な立場の人と問題意識を広く共有すると同時に、私の考えが間違いかどうかを確認する、という意味でも投稿した次第である。

このサイクルを解決しない限り、現状は変わらない。現状が変わるには①理系で地学選

択を可能にするか、②地学と他の教科を融合した分野を作るか、であろう。①は高校の問題というよりむしろ、履修科目と大学受験のシステムの問題である。高校（特に進学校）は、大部分の生徒の進路が定まっていない2年生の初めに理科選択が待っている。受験を視野に入れると、生徒は地学を選択しないだろう。地学では受験の際の学部選択の幅が狭まるからである。また、②を行うには大規模な指導要領の改訂が必要である。どちらも大変な仕事だろう。ゆえに、しばらく地学履修者と地学教員の現状は変わらないだろう。

しかし、今回の指導要領改訂にあたって、センター試験の動向は注目に値する。センター試験が理科4科目を独立に行うことになれば、履修状況も少しは変わるかもしれない。また、近年マスコミにも取り上げられる博士号取得者の就職問題で、博士号取得者が高校地学教員の職に就けば多少は改善されるかもしれない。

学習指導要領の改訂により、物理教員による地学（天文）普及の可能性も増えると私は考えている。天文関係者が物理教員になれば、相対性理論も天文学も教えることができ、後継者も増えるかもしれない。多少なりともこの問題が変わることを期待する。

渡會 兼也